

の編成製及工事の着手實施に際しては廣く官民中の有識者を網羅したる交通會議の諮詢を経るべきものとするならば茲に始めて理想的な自動車交通網の完成を期し得るべきであらうと思ふのである。

道路に對する根本計畫樹立に就ての私見

前川 貫 一

輓近自動車の急激なる發達に伴ひ道路改良熱各地に勃興し相競ふて其計畫を立て大に面目を改め今や隔世の感あり。人類の福祉増進經濟發展上洵に喜ぶべき現象ではあるが翻て現存せる道路のみに就て見るも其延長莫大なる數に達し全般に亘りて改良を施すことは經濟上到底之を許さず米國の如き其富世界に冠たる國に在りても今や其負擔に耐へざるを覺り財政計畫に就き種々論議されつゝあり。我國の如き小國にても北海道及び各府縣を通じ之を見るに昭和三年末現在の調に依れば國道八二三一籽府縣道九四八六籽準地方費支辨道路三五九七籽市道二三九五八籽町村道八一二〇〇七籽に上り國道は漸く自動車交通を爲し得るもの其大部分を占むれども府縣道に在りては憫むべき状態にある之に適當なる改良を施さんとするには其業實に容易でなく現在の如き極

めて消極的なる改良竝に維持に止るも道府縣を通じ道路橋梁費に投じたる金額は大正七年の三一五七萬圓に對し大正十一年には一五九八萬圓に上り昭和元年には一躍一五四三〇萬圓の巨額に達して居る。今之を普遍的に改良計畫を施すことは財政上不可能たるを嘸々を要せず必ずや健全確實なる財政計畫の下に實際に即したる道路網を組直し適切なる合理的計畫を立て事業を遂行するの急務を感ずるものである。右實行に對し今日の如き複雑なる時代に於ては少數なる人々の見解并に判斷により定むべきでなくして他方面の有識者を網羅し衆智を蒐め多くの事實を學術的并に實際的に演繹歸納し之を判斷し決定すべきことを適當と認める。

國道は東京市より神宮各府縣所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地又は樞要港灣に達する路線并に軍事上重要な路線にして、我國の大幹線なれば第一着に改良の要あるは今更喋々を要せざれども府縣道にては郡制廢止の際郡道を無理に編入したるものあり。又最早縣道として適當ならざるものも行政上廢止し得ざるもの少からず。尤も道路法第十一條に府縣道資格に對する必須條件ありて何れも理論上適切なる條項ありて之に適合せしめて認定されたるものなれども種々の事情に因り右運用に於て立法の精神を失ひたるの亦少からざる憾がある。今國府縣道の總延長を見るに約二六〇〇里にして之を總面積二四七〇〇方里に割當れば一方里當り一、五里で先進各國に比し餘り遜色がない。尤も國の大小、經濟狀態の差違、農工業の狀勢、山林の分布狀態及び人口并に集團の分布等に因り著しく道路延長に影響を及ぼすべきは自然の理にして一概に多寡を論ずることを

得ざるは勿論である。英國は工業非常に發達し、佛國は農工業併せ發達し、米國は各州政治的に分界せられ、工業を主とせる所あり、農業を主とせる所もあり、各其趣を異にし、面積に對する延長率も相當差違あるは免れざれども、歐米各國の狀勢より見れば、非常に工業の發達せる平坦部に在りては、一方哩に對し二・三哩農業の發達せる部分にては、一・七哩農業の發達せる丘陵部にては、一・四哩山間部にては、〇・七哩砂漠地にては、〇・三哩が大體の標準と稱せられて居る。我國は山岳重疊して平地極めて僅少なるに拘はらず、一方里當り一・五里は稍飽和状態に在りと稱して可なるべく、唯如何にして之を改良すべきか、問題である。假令如何なる富有國に在りても、莫大なる延長に達する全道路を充分に改良することは經濟上不可能であり、又實際に於ても交通極めて少き道路を改良する如きは愚の骨頂である。故に道路の財政計畫を樹立するには、先づ慎重なる調査に俟たなければならぬ。

右調査に當り交通調査人口の分布状態農産物の數量并に搬出路工業地に在りては、其產出額并に搬出路等に就き精細なる研究を施し、尙將來期待し得べき狀勢をも考慮を加へなければならぬ。尙近年に至り都市に集注する傾向著しく増加し、交通機關の進歩發達と相俟ちて、底止する所を知らざる狀勢にある。最近四五十年間に亘り、其勢猖獗を極め、獨逸の如きは全人口の三分の二、佛にては相當農業政策を採れるも、已に二分の一、英國の如きは八割、米國にては二分の一は都會生活を營めり。我國にては内地人口六千四百四十五萬人に對し、五萬以上の人口を有する都市生活者已に千七百五十萬人に達し、二萬以上の小都會に住する者をも加ふれば、約半分にも達すべしと思はる。此等異動

狀勢に就ても特に深甚なる考慮を加ふるに非れば甚しき違差を生すべき虞れがある。尙道路の機能を充分に發揮せしむるには其培養線たる町村道の改良を圖らなければならぬ。又町村道とても交通量多く産業并に交通上重要な點に於て現在普通府縣道に優るとも劣らざるもの少からず。此等に對して自動車交通に適する改良并に維持を爲すことは町村事業として適せず府縣事業と爲すに非れば効果を全ふすることは覺束ない宜しく重要な町村道は府縣道の資格を緩和し府縣にて之を經營する事道路政策上肝要と思ふ。

道路は人類の福祉増進産業發展に資する所多大にして其利潤廣汎に亘るが之を數字的に現はすこと不可能なる部分が多い。若し數字的に現はし得る部分のみの受益者負擔にて大體支辨し得るに於ては道路の財政計畫を樹つること極めて簡單にして理想的なれども我國の交通情勢にては當分不可能である。米國の如きは自動車の發達目覺しく道路總費用の二五・九パーセントは自動車税三六パーセントがガソリン税一九・五パーセントが起債五三・三パーセントが地方團體〇・九パーセントが一般徴税四・四パーセントが雜收入八・一パーセントが國の補助と云ふ振合である我國の如きは自動車の發達最近著大なるものがあるが人口一千人に對し米國が二一・七五臺に對し僅に一・一にして到底比較にならぬが佛國が三五・八獨逸が一〇・八和蘭が一・六伊太利が七・一西班牙がさへ八・三で眞に憫むべき状態にある。是は富の程度にもよるが道路不良の爲め充分利用することが出来ないにも據ることは明瞭である現在の狀況にては自動車税并にガソリン税にて到底纏つた財源を生み出すこ

とは出来ないが道路計畫は所謂百年の大計で多年に亘りて進工を要するものなれば社會の進運に伴ひ改修後の情勢をも憶測して適當なる見越を立て財源を豫測することは當然である。唯其豫測たるや各方面の事實を分析研究し適切なる判斷を施し大過なきを期せねばならぬ。次に沿道に於ける土地價格の増加産業の發展地方繁榮増進に對し受益者として土地所有者耕作者工業家自治團體より適當なる負擔を爲さしめ受益者をして大部分の費用を負擔せしめ一部は府縣全體に利益を受くる關係上一般財源にて補給するを合理的とするが我國の國情未だ其域に達すること遠きを以て半額位は一般財源より補給するは止むを得ざるべし。現行はれつゝある受益者負擔方法は簡便法により實情に適せざる爲め怨嗟の聲高く徵稅困難にして實行不可能に陥つて居る。須らく慎重の調査を施し合理的なる査定の下に適當なる負擔を課し道路の財源の大部分は受益者負擔により支辨せしむる理想の下に進むに非れば道路改良の財政計畫の確實性を失ひ中途に挫折するなきやを憂ふるものである。左ればとて苛斂誅求して過大なる負擔を徵すべしと云ふに非ず各自の負擔能力を考慮して定むべきは無論である。目下の現狀にては之が費用の多くは起債にて支辨し漸く少部分を受益者負擔によれども近き將來に財政上行詰りを生ずべきは逆睹するに難からず。今や根本的計畫を立て直し道路も工費を合理化すべき生産機關として適當なる改良計畫を施し財政的基礎を確立すべきである。

道路構造令には國府縣道町村道等に就き各規格あるも交通の狀勢に於て著しき懸隔ありて大體

改良より生じたる利益が其工費を償ふべき原則に準據すべき立前を採るものとせば相當緩和の要ある様に思はれる。交通夥しき平地部の高等道路に就ては深遠なる技術を要するは論なけれど、山地の交通少き低級道路に就ても合理的に許さるべき工費貧弱なる關係上、技術上特別の苦心を要すべし。高價なる運搬費を要する材料の代用として出來得る限り其地方に産出する原料を利用加工し施工に當りても多く人力を用ひ、普通労働者の爲し得る工法を採る等種々様々の苦心を要す。何れにしても改良により生ずる利益が工費を合理化する原則の下に施工するには多くの場合工費の潤澤を期すること能はず技術者の苦心容易ならざるべし。若し徒らに放漫政策を踏襲するに於ては改良計畫實行の基礎を危くし結局不能に陥るべく、又實際に即せざる改良は資本の濫費に止まり國家經濟を誤るものである。

今や世界的不況に陥り、各國共失業者充滿し不熟練工を收容するには普遍性ある道路工事を起すが失業者救済として最も適當なる方法であるとして各國共之を採用するに至つたことは、道路界として喜ぶべき傾向ではあるが、失業者激増の爲め普通の使役方法にては其數を充たす能はず、爲に従來機械力を利用し經濟的に進歩したる工法を退け、昔の原始的方法に還元せんとする傾向さへある。是とても、或程度迄は焦眉の急に應ずる便法として止むを得ないけれども、使用者を増加せんとするの餘り其度を超ゆるに於ては、生産的機關としての經濟的基礎を危くし引當なき負債を將來に貼し累を後世に及ぼすの結果を來すものなれば、經濟的關係を無視することなく失業者を充たすに足ら

されば、須く工事を擴張すべきである。尤も國家の財政上困難なる事情あるべきも、熟練工の需要を喚起し、材料供給の爲め諸工場の繁榮と共に種々の方面にも餘澤を與へ、購買力を増進し、徵稅上にも好影響を及ぼし、例の赤字問題も消失するに至るべし。目下諸物價下落の底なれば、極めて低廉なる工事費にて改良を行ひ得べく、洵に一舉兩得である。機關に油を注がずして、徒に不況を啣つは餘りに無策ではないかと思ふ。兎に角如何に失業救濟事業とても前陳したる合理的計畫の下に、施工し工費の合理化を希望して止まないものである。

風景地に於ける道路の功罪

田 村 剛

開發せられざる風景地は、埋れたる金鑛に均しい。古く道路は産業、軍事等のために開鑿せられた。然るに近代道路は更に新たなる使命を發見せられるに至つた。

近代人はその日常の單調にして過激な生活から逃れて、心身の休養慰樂を求め、その餘暇